

## 登録簿(鳥獣保護管理調査コーディネーター)

登録番号	R13002		
(ふりがな) 氏名	きしもと まゆみ 岸本 真弓		
連絡先	名称	株式会社野生動物保護管理事務所 関西支社	
	役職	シニアマネージャー	
専門分野	鳥獣保護管理調査コーディネーター		
専門とする鳥獣	<input checked="" type="checkbox"/> イノシシ <input checked="" type="checkbox"/> ニホンジカ <input checked="" type="checkbox"/> ツキノワグマ <input type="checkbox"/> ヒグマ <input checked="" type="checkbox"/> サル <input checked="" type="checkbox"/> カモシカ <input type="checkbox"/> カワウ <input checked="" type="checkbox"/> 外来種 (アライグマ、ヌートリア ) <input type="checkbox"/> その他 ( )		
主な活動地域	<input type="checkbox"/> 北海道 <input type="checkbox"/> 東北 <input type="checkbox"/> 関東 <input checked="" type="checkbox"/> 北陸 <input checked="" type="checkbox"/> 中部 <input checked="" type="checkbox"/> 近畿 <input checked="" type="checkbox"/> 中国 <input checked="" type="checkbox"/> 四国 <input type="checkbox"/> 九州 <input type="checkbox"/> 沖縄		
鳥獣保護管理活動の経歴	<p>平成2年度に株式会社野生動物保護管理事務所入社。入所以降、西日本を中心にニホンジカ、ツキノワグマ、ニホンザル、イノシシなど中大型哺乳類の調査・管理業務の委託事業に取り組んできた。平成15年度以降は、アライグマやヌートリアなど特定外来生物の調査および防除モデル事業などにも取り組んでいる。生態調査だけでなく、年齢査定や食性分析など野生動物医学分野にも携わっている。</p>		

○登録者の住所、電話番号、FAX番号、E-mailに関わる情報については、利用者が利用申請書を運営事務局へ提出した場合に、当該利用者に関し情報の提供をします。

# 鳥獣保護管理調査コーディネーター

岸本 真弓

株式会社野生動物保護管理事務所  
関西分室

《東京都第001号認定鳥獣捕獲等事業者》

対象鳥獣  
ニホンジカ

活動地域  
鳥取県

## 事業内容

県内全域のニホンジカの生息密度指標調査及び生息環境調査

## 事業の背景

鳥取県では、平成20年度からニホンジカの生息実態調査を開始し、平成22年8月にはニホンジカ保護管理計画を策定した。その後も生息実態調査を継続的にモニタリングしている。県内のニホンジカの生息動向を把握するために、糞塊密度調査による生息密度調査の実施と生息環境調査を実施する。この他、階層ベイズモデルを用いて市町村別の個体数推定と指定管理鳥獣捕獲等事業における捕獲計画についてアドバイスする。

## 依頼を受けて実施した内容

県内で最も密度の高い県東南部では捕獲圧が効を奏し生息密度増加率が他地域に比べて低い。このことで県内全域の個体数上昇がある程度抑制されていることが明らかとなった。また、数年前から実施してきている森林衰退状況調査によって、県内のシカ密度の指標となる植物を特定し、森林へのシカの影響度を測る目安を確立した。この調査結果から、分布情報の少ない県央、西部地域でも森林への影響は始まっていることを示してきた。事業ではこの他これらの結果をもとに、階層ベイズモデルを用いて市町村別の個体数推定と県全体の今後の推移予測を行っている。



写真1：  
シカ密度が低い森林  
（下層植生が繁茂している）



写真2：  
シカ密度が高い森林  
（下層植生が消失している）

鳥獣保護管理調査コーディネーターは、関係する調査の知識や高い技術をもっていることは当然のことながら、調査を通じて地域にあった手法や指標を開発、設定していくことが求められる。今後は植物側の指標を基軸に密度指標との関係性から適切な密度設定を試み、科学的な根拠を持って本県の二ホンジカ管理の具体的目標を設定できるように尽力した。